

## 柱立て1 大学入学共通テストについて

- (1) 「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」へ切り替わる入試改革全般の改善効果について伺います。
- a 学力の3要素を多面的・総合的に評価する今回の入試改革は、各大学の個別選抜の改革も含め、改善効果が期待できる
  - b 各大学の個別選抜については、多面的・総合的な評価に基づく入試を目指しながらも、時間的・人的な制約から、改革趣旨を十分に生かすことは難しいと思われるため、現状では改善効果は期待できない
  - c 現時点では、どちらともいえない
- (2) 平成29年度実施の試行調査（プレテスト）の内容について
- ① 記述式問題の導入で期待される効果について伺います。
- a 記述式問題の導入で、従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」を評価することができる
  - b 記述式問題を導入しても、従来に比べ受験生の「思考力・判断力・表現力」をそんなに評価できるとは思わない
  - c 現時点では、どちらともいえない
- ② 記述式問題の採点においてはその能力を有する民間事業者を有効に活用するとありますが、採点の公平性について伺います。
- a その能力をもつ民間事業者の採点なので不安はない
  - b 多くの受験生の採点を短期間で行うので、やはり不安がある
  - c 現時点では、どちらともいえない
- ③ マークシート問題では、従来の傾向と異なる問題が出題されました。その問題について伺います。
- a 従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」を評価することができる
  - b 従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」をそんなに評価できるとは思わない
  - c 現時点では、どちらともいえない
- ④ 自己採点では、自己採点ワークシートや解説が出されました。それについて伺います。
- a 自己採点の精度も上がり、出願指導に支障は生じなくなると思う
  - b 出願指導に支障が生じると思う
  - c 現時点では、どちらともいえない
- ⑤ 国語の記述式問題については、プレテストの結果を受けて、記述式問題の問題数、構成、試験時間等が共通テストにおいても維持されるとともに、小問ごとの段階別表示のみならず、小問に応じた重み付けを行った5段階の「総合評価」を表示するとの方針が示されています。このことを踏まえて、記述式問題で加点する最高点が、マークシート式の得点と合わせた国語全体の満点に占める割合について伺います。
- a 2割程度が適切である
  - b 記述式問題の割合は（2割より）できるだけ小さい方がよい
  - c 記述式問題の割合は（2割より）できるだけ大きい方がよい
  - d 現時点では、どちらともいえない

⑥ その他、記述式問題の導入に係り、心配なことや課題となっていることがあればご記入下さい。

(3) 英語においては、4技能を適切に評価できる民間の資格・検定試験を活用することで、英語の能力をバランスよく評価することを目指すこととなります。

① 平成30年3月に、大学入試英語成績提供システムへの参加要件を満たすことが確認された資格・検定試験が公表されました。民間の資格・検定試験の活用について伺います。

- a 既存の資格・検定試験は高校生の英語力を図るには全体として難易度が高く、受験料も高額なものが多いので、高校生に適した検定を、新しく民間に策定させるのがよい
- b 既存の資格・検定試験の中から文科省が選定・認定し、その資格・検定試験を受験することで、どの大学でも受験できるようにするのがよい
- c 各大学・学部の特徴に応じて、大学側が自由に指定した資格・検定試験を活用すればよい

② 民間の資格・検定試験を活用する場合、英語の4技能を測る1回の受験料として、いくらぐらいが妥当な金額だと思いますか。

- a 1,000～3,000円
- b 3,000～5,000円
- c 5,000～8,000円
- d 8,000円以上

③ 民間の資格・検定認定試験の活用方法について伺います。

- a 得点化して大学入学共通テストの英語の成績に加点するのがよい
- b 一定水準以上を出願資格として活用するのがよい
- c 出願資格と加点方式を併用するのがよい
- d 各大学・学部の特徴に応じて、大学側が自由に活用すればよい
- e 現時点では、いずれともいえない

④ 民間の資格・検定認定試験を加点方式で活用する場合、その最高点が共通テストの英語の成績と合わせた英語全体の満点に占める割合について伺います。

- a 2割以上が適切である
- b 各大学が適切に定めるのがよいが、できるだけ大きい方がよい
- c 各大学が適切に定めるのがよいが、できるだけ小さい方がよい
- d 現時点では、いずれともいえない

⑤ 民間の資格・検定認定試験を出願資格として活用する場合、CEFR対照表に基づいて一定水準以上を出願資格とすることが考えられます。その場合の出願資格について伺います。

- a 例えばA2以上など、できるだけ低い水準として、必要最低限の出願資格とするのがよい
- b 例えばB1以上など、できるだけ高い水準として、インセンティブを与えるのがよい
- c 現時点では、いずれともいえない

⑥ 民間の資格・検定試験の受験時期について伺います。

- a 学校として生徒に適切な受験時期を指導していく
- b 受験する大学の入試区分に応じて、生徒自身に受験時期を考えさせる
- c 生徒ができるだけ早い時期に受験できるよう、学校行事を見直している
- d 現時点では、いずれともいえない

⑦ 民間の資格・検定試験に向けた指導について伺います。

- a 学校として多くの生徒が受験する資格・検定試験を想定し、学校行事の設定も考慮しながら想定した資格・検定試験に向けた指導を行っていく
- b どの資格・検定試験を受験するかは生徒によって異なるので、学校として資格・検定試験に合わせた指導を行う予定はない
- c 現時点では、いずれともいえない

- ⑧ 英語の試験として、平成35年度までは共通テストの中に英語を残すことになりましたが、平成36年度からはセンターによる英語の共通テストがなくなる可能性もあります。このことについて伺います。
- a 平成36年度以降も、民間の資格・検定試験だけに頼らず、大学入学共通テストの中で英語試験を継続的に実施した方がよい
  - b 平成36年度以降は、大学入学共通テストの中では英語の試験を行わず、全面的に民間の資格・検定試験の利用に移行するのがよい
  - c 現時点では、いずれともいえない
- ⑨ その他、民間の資格・検定試験について、心配なことや課題になっていることがあればご記入下さい。

(4) 平成32年度の大学入学共通テストへの対応について伺います。

① 対応準備について

- a 新しいテストに向けて、すでに校内で委員会等を設けるなど組織的な準備・対応を始めている
- b 新しいテストに向けて、委員会等を設けるなど組織的な準備を始める予定がある
- c 新しいテストに向けた準備の必要性は感じるが、まだ予定が立っていない
- d 新しいテストに向けた準備は、現時点では特に必要としていない

② 指導方法・指導体制について

- a 校内での指導体制や指導方法を工夫することにより対応できる
- b 校内の指導体制では、新テストに対しての十分な指導は難しい
- c 現時点では、どちらともいえない

<h2>柱立て2 新しい大学入学者選抜について</h2>
------------------------------

(1) 新しい大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用方法について伺います。

- a 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大は共通テストに参加して、新たな入学者選抜に取り組むべきである
- b 各大学が個別選抜の改革を行っていく上で、多くの国公立大学や私立大学は共通テストに参加することが望ましい
- c 共通テストに参加するかどうかは、各大学独自の判断でかまわない

(2) 総合型選抜や学校推薦型選抜において、過度な早期選考と合格発表、学力不問の傾向が続き大きな課題となっていました。今回の大学入学者選抜実施要項の見直しにおいて新たなルールが出されました。

① 総合選抜、学校推薦型選抜において、各大学が実施する評価方法等（小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテストなど）又は「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つの活用を必須化しました。そのことについて伺います。

- a 何らかの形で、受験生の学力を問うことを必須とした点で、大変評価できる
- b 今までの多くの大学の入試の実施状況をみると、きちんと履行されるか分からない
- c 実際の入試が始まってみないと、なんともいえない

② 総合型選抜においては、出願を1ヶ月遅らせ9月以降とし、合格発表を11月以降と新たに決めました。また、学校推薦型選抜においては、出願は現行の11月以降ですが合格発表時期を12

月以降と新たに決めました。そのことについて伺います。

- a 高校3年生での、選抜に合格した後の学習意欲の低下を食い止める点で、大変評価できる
- b 今までいくつかの大学が選抜時期を守らなかった状況があり、きちんと履行されるか分からない
- c 実際の入試が始まってみないと、なんともいえない

(3) 学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書や提出書類等の改善が求められています。そのことについて伺います。

① 調査書の記載事項である生徒の特長や個性、多様な学習や活動を記録する環境の整備の進捗状況について

- a 記録する環境の整備はすでに整ったので、今年度の入学生について4月から記録している
- b 今年度の入学生が在籍している間に整える予定である
- c 実際の入試が始まってみないと、なんともいえない

② 学力の3要素を多面的・総合的に評価するための、生徒の特長や個性、多様な学習や活動を記録する環境の整備としてどのようなことを予定または行っていますか。

- a 学校独自の電子のポートフォリオ
- b 県独自の電子のポートフォリオ
- c 民間の電子のポートフォリオ
- d JAPAN e-Portfolio (e-ポートフォリオ)
- e 紙媒体のポートフォリオ
- f その他(具体的に )

③ その他、調査書や提出書類を記録・作成するための環境整備に関して必要と思われる取組やご意見があればご記入下さい。

(4) 学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、大学は一般選抜の選考においても調査書の活用が求められています。そのことについて伺います。

① 一般選抜の選考における調査書の大学側の活用について

- a 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大は選考に調査書を統一的な方法で活用してほしい
- b 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大が活用するならば統一的な方法でなくてよい
- c 各大学が個別選抜の改革を行っていく上で、調査書の活用方法は各大学独自の判断でかまわない
- d その他( )

② その他、一般選抜の選考における調査書の大学側の利用について、ご意見があればご記入下さい。

(5) 推薦書や活動報告書、大学入学希望理由書、学習計画書など必要に応じて、様々な書類を作成する必要があります。これらの書類を作成する上で、心配なことや課題となっていることがあればお書き下さい。

(6) 小論文・プレゼンテーション・集団討論・面接など選抜方法の多様化に対する高校側の指導体制の整備について伺います。

- a 現行の教育課程においても、工夫することにより対応できる
- b 現行の教育課程においては、時間的な余裕や教員の指導力などの課題があり、十分な指導は校内では難しい

c 具体的な選抜方法・内容がまだ分からないので、なんともいえない

(7) 新しい大学入試は、大学入学共通テストでの記述式問題など、今までのテストにない新たな形式の問題の出題や、個別選抜ではエッセイやプレゼンテーションやディベートなどの活用が考えられています。また、英語の4技能については、民間の認定試験の活用も考えられています。各家庭の経済力や地域差が、教育の機会均等や進学結果に影響を与えることも考えられますが、このことについて伺います。

① 各家庭の経済力の差が今まで以上に入試の結果に影響を及ぼすと思いますか。

- a そう思う
- b ある程度そう思う
- c あまりそう思わない
- d そう思わない

② 地域差が今まで以上に入試の結果に影響を及ぼすと思いますか。

- a そう思う
- b ある程度そう思う
- c あまりそう思わない
- d そう思わない

③ 高等教育の負担軽減の具体的方策として、住民税非課税世帯の授業料免除、給付型奨学金の大幅拡充が検討されています。このことについて、心配なことや課題となっていることがございましたらお書きください。

(8) 多面的・総合的な選抜として、総合型選抜や学校推薦型選抜の割合が増えることが考えられます。このことに対する対応について伺います。

- a 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために、探究活動やコンクールなどの活動を充実させ、その指導を強化している
- b 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために、「総合的な学習の時間」の内容を見直している
- c 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために主体的な活動・指導の在り方を検討している
- d これまでと変わらず、一般選抜を主に指導をしていく
- e 現時点では、なんともいえない
- f その他 ( )

(9) 新しい大学入試の実施に伴い、生徒一人一人の多面的な評価を高校側でも記録し、大学側へ丁寧な情報提供をすることが重要となってきます。その流れの中で、高校側としてご意見等ございましたらお書きください。